
2019 年度

(平成 31 年度)

事業計画書



2019 年 4 月 1 日より 2020 年 3 月 31 日まで

公益財団法人 **国際障害者年記念ナイスハート基金**

2019 年度事業計画策定にあたって

1981 年（昭和 56 年）の国際障害者年を契機に翌年 8 月に設立された当基金も、設立より 37 年目を迎えます。

設立当時より、永年の月日を経てきた今も当基金が目指してきたことは、障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう「共生社会」の実現であり、様々な視点で障害のある人たちへの課題を考える機会をつくることを目的とした事業への取り組みを、引き続き展開していきたいと考えております。

ふれあいの広場事業は、当基金が設立以来、取り組んでいる事業です。スポーツや音楽等を通じて、障害のあるなしに関わらず共に参加し楽しむことのできるプログラムを創造し、開催してまいりました。

「ふれあいのスポーツ広場」は、自動車総連、各地方協議会のご協力をいただきながら、開催しております。平成 30 年度は全国 47 会場での開催を目指し、設立以来初めて 47 都道府県全てで実施することができました。

日本福祉大学教授の藤田紀昭先生が監修するプログラムも、障害の有無にかかわらず楽しむことのできる競技を目指して、大学生のみなさまにお力をお借りしながら、新たな競技の開発にも力を注いでおります。西九州大学の障害者スポーツに関わる学生さんたちにも本格的に協力の輪に加わっていただいております。

今年度は、引き続き全都道府県 47 会場の開催を目指して参ります。また、プログラムの一部見直しや PR 活動も進め開催してまいります。

「ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ」は、平成 30 年度には、まず東日本大震災の被災地である宮城県の石巻市・女川町の障害者施設での取組を実施し、第二弾として 9 月の北海道胆振東部地震で被災された札幌市周辺の障害者施設でも実施することが出来ました。

今年度には、昨年西日本豪雨において被害にあわれた広島県内の障害のある方々を中心に計画し、言葉を越えたコミュニケーションの手法を知っていただけるよう、努力して参ります。

ユニバーサルスポーツのプログラム開発ワークショップは、東日本大震災の被災県である、福島、宮城及び愛知県での開催を積み重ね、日本福祉大学教授、藤田紀昭先生の監修の元、ユニバーサルなスポーツ競技のプログラムづくりを実施しております。今年度については、西九州大学の皆さんにご協力を頂き、佐賀県において実施し、連携の輪を広げて参ります。

ユニバーサルスポーツの普及に関する調査研究では、障害福祉サービス事業所及びユニバーサルスポーツの提供団体と連携し、障害の有無に関わらず行うことのできるスポーツプログラムの充実に寄与することを目的に、この研究を実施致します。

昨今の低金利につき、年々基本財産の運用が厳しい状況となり、法人の運営について困難な状況が増しております。賛助会員や寄付者の募集活動について積極的に取り組むため、ニュースレターおよびホームページの内容についても吟味をして参ります。

多くの皆様のご理解とご支援のもと本年度事業が展開できますよう、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

2019 年 4 月
公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

1. ふれあいの広場事業

(1) ふれあいのスポーツ広場の実施

障害の有無に関わらず、軽スポーツを通じ、共に楽しみ、交流することを目的とし、当基金設立時より実施している事業です。

平成4年度以降は「全日本自動車産業労働組合総連合会（自動車総連）」より物心両面にわたるご支援をいただきながら、開催しております。平成30年度には、47都道府県全てにおいて開催することができました。

障害の種別や程度でなるべく影響の少ないプログラムとして、ユニバーサルスポーツをキーワードに、各種スポーツ団体や障害者スポーツの研究者との検討により、多くのプログラムを創造し、実施しております。

現在、日本福祉大学教授の藤田紀昭先生を中心とする大学生のみなさんに、独自のユニバーサル・スポーツプログラムを提供いただき実施すると共に、仙台ユニバーサルスポーツ研究会、西九州大学アダプテッド・スポーツ研究会、日本エアロビック連盟、日本障害者フライングディスク連盟の皆様にプログラムの提供をいただきながら、運営を支えていただいております。

多くの関係者、ボランティアの皆様を支えられ、今年度においては下記の都道府県において開催を計画しております。

実施時期 2019年4月～2020年3月

開催地域 全都道府県において1会場を予定

開催数 全国47会場（予定）

共催 全日本自動車産業労働組合総連合会

後援 内閣府、スポーツ庁、開催都市、開催都市教育委員会等

協力団体 日本福祉大学 Echos

仙台ユニバーサルスポーツ研究会

西九州大学アダプテッド・スポーツ研究会

公益社団法人日本エアロビック連盟

特定非営利活動法人日本障害者フライングディスク連盟

プログラム内容

日本福祉大学教授 藤田紀昭先生の監修の元、障害の有無に関わらず、誰もが共に参加し楽しむことのできる競技として、開発された競技を中心に実施しています。午後には、ご協力をいただいているスポーツ団体、大学生のみなさんが、それぞれに考案したユニバーサルな競技を実施し、お楽しみいただいております。



競技内容（例）

☆ロープ送り

2列縦隊で座った列の先頭から、最後尾に向かってロープを送っていき、最後尾でUターンして最前列へ。ロープの最後が最前列の競技者にわたったら、ばちと交換。太鼓を打ち鳴らす競技。



ロープ送り / 平成 30 年度善通寺大会

☆風船バレー

2チームに分かれ人の列で区切りを作る「人間ネット」を中心線とします。各チーム30～50個の風船を持ちスタート。自陣から風船の個数を減らしたチームが勝ち。



ホールインワン / 平成 30 年度宇都宮大会

☆ホールインワン

スタートの音楽の合図が鳴ったら、パラシュートを上下を繰り返す。

指導者の合図でパラシュートを右に回し、その後ボールを入れる。全員で協力してパ

ラシュートの中央の穴にボールを落とす。ボールを穴に落とした後、早く座った方が勝ち。



じゃんけんダンス / 平成 30 年度京都大会

☆みんなでストレッチ

運動不足になりがちな施設職員、利用者を対象に、施設でも行えるよう、藤田先生が考案したストレッチ運動。

☆じゃんけんダンス

リズムカルな音楽に乗せ、二人一組で行うダンス。最後には二重円をつくり、じゃんけんにて洗濯ばさみを取り合うゲームを行う。

☆ジャンボールリレー

大きな軽いボールを四人一組でネットを利用してリレー。仙台大学障害者スポーツサポート研究部 C0-Act. 考案。

☆輪になって運ぼう

輪になって手をつないで、5人一組で大きな軽いボールを運ぶゲーム。仙台大学障害者スポーツサポート研究部 C0-Act. 考案。



輪になって運ぼう / 平成 30 年度盛岡大会

(2) ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップの実施

障害の有無に関わらず、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方について学ぶ場として、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたします。

平成30年度には、東日本大震災の被災地である宮城県内において、障害者施設を会場に、体験いただきました。

今年度は、西日本豪雨災害の被災地である広島県内を中心とした会場で、理解を広げる活動を行って参ります。

実施時期：2019年9月

対象者：障害のある方、教職員、ボランティア等

ファシリテーター：庄崎 隆志氏（office 風の器主宰・俳優・演出家）

メイミ氏（漫談家・特定非営利活動法人笑顔工房 理事長）



プログラム概要一例

石巻市障害者地域活動支援センターみどり園 平成30年9月5日(水)

時間	プログラム	写真
11:00～	ワークショップ開始 ご挨拶(菅原様) アイスブレイク (拍手/ハイタッチ他)	
11:10～	エアボール / エア風船 早着替え メイミパフォーマンス	
11:20～	ミラーリング	
11:30～	エアボーリング エアなわとび	
11:35～	汽車ごっこ	
11:40～	変身ショー 記念品贈呈 お礼の言葉	
11:50～	ワークショップ終了 【参加者合計36名】	

2. 開発、普及及び育成事業

(1) ユニバーサルスポーツのプログラム開発ワークショップの実施



当基金が設立以来、実施を重ね開催規模を広げている「ナイスハート・ふれあいのスポーツ広場」事業では、多くの障害者スポーツに関わる指導者の助言や協力のもと、従来にない新たな競技を開発し、プログラムとして提供してまいりました。日本福祉大学スポーツ科学部教授である藤田紀昭先生が、学生のみなさんと協議を重ね開発してきたプログラムです。平成23年度からは、仙台大学障害者スポーツサポート研究部「Co-Act」のみなさんも競技開発に加わり、プログラムの内容も充実して参りました。



過去4年にわたり、ユニバーサルなスポーツ競技の新たなプログラムを開発することを目的として、東日本大震災の被災地である、福島県、宮城県内及び愛知県内で実施し、障害のある子どもとご家族を対象として、スポーツを楽しむことのできるプログラムづくりをテーマに開催いたしました。

今年度は西九州大学の皆様にご協力頂き、佐賀県内にて実施を致します。

実施時期：2020年2月の3日間

会場：西九州大学他

対象者：教育・福祉・体育の専門職員及びその学習をしている学生等

講師：藤田 紀昭氏（日本福祉大学スポーツ科学部教授）

佐藤 一樹氏（仙台ユニバーサルスポーツ研究会）

(2) 各事業報告書の発行

障害のあるなしに関わらず、共に楽しむことのできる手法で、様々な事業展開をしている中で、その考え方や手法を、多くの方に知っていただき、様々な活動の中で取り組んでいただけるよう、報告書として整理し配布いたします。

刊行時期：2020年3月

発行部数：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。



(3) ニュースレターの発行

当基金が設立以来、事業活動の基礎とし周知に努めてきている障害のあるなしに関わらず共に楽しみ、取組ながら相互理解を深めていくための「ふれあいの広場」事業を、その理念や活動内容、プログラムの手法などの情報を掲載した機関紙「ないすはあと」を年4回発行し、多くの方々にこの活動の理念を知っていただくため、内容の充実に努めていきます。

発行月：6月、9月、12月、3月

発行数：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

内容：ふれあいの広場事業に関わるプログラム内容、手法、実施の状況等



3. 調査研究事業

(1) ユニバーサルスポーツの普及に関する調査研究～障害福祉サービス事業所を拠点として～の実施

当基金の設立目的である、よりよい社会づくりのために協働し共生社会づくりへの一助とするため、障害福祉サービス事業所及びユニバーサルスポーツの提供団体と連携し、障害の有無に関わらず行うことのできるスポーツプログラムの充実に寄与することを目的に、この研究を実施する。

- (1) 障害福祉サービス事業所におけるユニバーサルスポーツの取組の状況を明らかにする。
- (2) 地域を基盤とした、社会参加のためのユニバーサルスポーツの実例と障害福祉サービス事業所との連携の状況を明らかにする。

実施概要

実施主体 公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

有識者による研究会

研究の期間 2年間 2019年度～2020年度

調査対象 初年度 事例研究

ユニバーサルスポーツ実施団体等の実施するユニバーサルスポーツ
プログラムの事例研究

障害福祉サービス事業所等のスポーツに関わる活動の事例研究

次年度 障害福祉サービス事業所の調査票調査

ふれあいのスポーツ広場参加の障害福祉サービス事業所に対する調査
成果物 年度ごとに報告書を作成。当基金ホームページにて配布